

# 四日市市幼児教育センター

令和7年12月



## センターだより はぐくむ

夢と志を持ち、未来を創るよっかいちのこども



四日市市幼児教育センターHP

連絡先 059-333-6002

2025・12・13

教育・保育フォーラム開催

こどもの育ちや学びをつなぐ～小さな一歩が未来を創る～



昨年「こどもまんなか社会をつくる保育者の笑顔の花を咲かせよう」をテーマに開催されたフォーラムから一年半がたち、現在社会状況や保育者をめぐる環境は改善されているでしょうか。そして、こどもたちの未来は確実な一歩でつながっているのでしょうか。

四日市市幼児教育センターでは、架け橋期（義務教育開始前後の5歳児から小学校1年生の2年間）のつながりのため、こどもをまんなかにして、就学前の教育・保育施設をはじめとし、小学校や地域・保護者の皆さんと協働的に取り組んでいくことができるように進めています。

去る12月13日の教育・保育フォーラムで東京大学名誉教授・学習院大学教授の秋田喜代美先生から、心強いエールをいただきました。

また、その後のパネルディスカッションでは、廣瀬琢也四日市市教育長が四日市市の教育の現状や目指す方向性、ビジョンを発言していただき、四日市市幼児教育・保育研究協議会会長も担っておられる三重大学教育学部教授富田昌平先生から、それぞれの職員が持続可能な取り組みができるようご助言いただきました。

オンラインでは、市外および県外からもご参加いただきました。多くの方と共に、また、次の一年を目指し、すべてのこどもたちのウェルビーイングのために、自分の立ち位置から一歩歩みを進めていくことができるよう、取り組み、温かく励ましあい、つながっていきたいと思います。

本フォーラム開催にあたり、多くの方々にご協力いただきありがとうございます。

つながり、進める、次の一歩を力強く、歩んでいきましょう。

## アンケート 回答から

今後の中学校区の連携を進めていくうえで大切にしたいことのキーワードとして安心と挑戦があること。また子どもたちを育てていくうえで安心を土台に夢中にさせる環境づくりの必要性。好きを育み得意をいかす今後の教育の方向性。

多くのキーワードをいただき、現在の取組みの成果と今後の教育の課題を得ることができました。

(小学校参加者より)

「園と小学校の先生が、こどもの姿を共に捉え、ワクワクを繋いでいく」というのは、とても大切だと感じました。

また、自己選択、自己決定、自己表現に繋げていくために、私個人として、園として出来ることを考えていきたいと思いました。

(こども園参加者より)

本日の研修会で学ばせていただいたことは、対話の重要性です。学びのプロセスを対話しながら子どもたちの経験をつないでいくためには、まずは私たちが対話し、それぞれの経験をつないでいく必要があるなと思いました。そのためは、保幼小中こ、地域の垣根を超えて、こどもの姿を元に対話できる仕組みをもっと作っていくことや、何で対話をするかという内容をしっかり考えていかないといけないと感じました。秋田先生がおっしゃられていた学びのプロセスを対話していくことがとても重要なことだと感じました。つつい結果だけを見て評価をしようという対話になってしまいがちですが、そうではなく、どのような過程があったのか、これからどうしていくのかについて対話を重ねることを大切にしていきたいと思いました。その中で、様々な教員や保育士の経験が繋がりが、結果として子どもたちの学びが繋がっていくのかなと思いました。

(教育行政参加者より)

こどもの姿で語ること、ワクワクのバトンを幼小連携で大切にしていくことなど、根本的に大事にしたいことを改めて教えていただいたと思う。

(保育園参加者より)

このような四日市市の現状を踏まえての研修会、教育長の話が具体的に聞けたのは、良かったし、またもっと聞ける機会があれば、嬉しいです。

(幼稚園参加者より)

学びを支える媒体は多様化し、自己選択で自分らしく学んで行く方向に進んでいく一方で、幼児教育の経験を小学校中学校へつなげていくという認識を共有することで保育園も教育機関としてしっかりと認められたのだと気が引き締まる思いがします。

未来を創る子どもたちを、大事に愛おしく育てていけるよう、私たち保育士も学びを深めていきたいと思いました。(保育園参加者より)



本市も架け橋プログラムの取組みを重ねてきていますが、事務局としての役割がまだまだ十分に果たせていないもどかしさを感じているところです。

そのような中、本日のご講演等をお聴きし、子どもをつぶやきやまなざしなどの姿をいろいろな方たちと語り合うことを通して、それぞれが子どもを見とる力を豊かにしていくことの大切さを学ばせていただきました。今後、授業改善、保育改善に架け橋プログラムの取組がつながることをいかに実感し、発信していくかについてしっかりと考えていきたいと思います。

また、就学前教育においては、公私立の幼稚園、保育所、こども園の連携をどのように図りながら、ともに質の向上を図っていくかという面で、貴市センターの果たしておられる役割がとても参考になりました。ありがとうございました。

(市外参加者より)

園から小学校への接続について、小学校1年生の担任や低学年担任が中心になって行う場合が多いが、中学年の担任が行うことで小学校の教職員が園を知る機会になることがある。

ある園で、廃タイヤやビール瓶ケースを集めて、保育に活用しているとの紹介があった。保育に活用している状況をHPやおたよりで知らせているという報告があり、それは小学校での地域コミュニティとの事業の活用報告にも活かせると思った。

また、総合的な学習の時間や地域コミュニティ、人権教育のカリキュラムを作成する時にも、紹介されていた園のカリキュラム作りの方法を取り入れたら、作りやすく明確なカリキュラムができあがると感じた。

初任期中に、園や小の接続において知っておくと、入学前にどんな力をつけてきているのかがわかり、小学校での教育に活かせると思う。

(小学校参加者より)